news release

北海道ｺｶ･ｺｰﾗﾎﾞﾄﾘﾝｸﾞ株式会社 〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
〔URL〕 http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/

2017年７月10日

報道関係各位

北海道の環境を守るあなたの１本「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザインが支援する活動

「北海道ｅ-水（イーミズ）プロジェクト」

第 19 回 日本水大賞 審査部会特別賞受賞

北海道コカ･コーラボトリング株式会社(本社：札幌市清田区 代表取締役社長：佐々木康行)は、2009 年に北海道と当社との間で締結した「環境保全に関するパートナーシップ協定」に基づき、「ジョージア サントスプレミアム」の売上金の一部を財源として、北海道の豊かで美しい「水」を中心とした自然環境を守り次世代へと引き継いでいくことを目的に、北海道、公益財団法人北海道環境財団、当社の三者協働で、道内各地域で水辺の環境保全活動に取り組む団体の活動を支援する「北海道 e-水プロジェクト」を 2010 年より実施し、8 年間で延べ 83 団体を助成しております。

この度、本プロジェクトの功績が認められ「第 19 回 日本水大賞」の審査部会特別賞を受賞しましたので、ご取材賜りたく、よろしくお願いいたします。

日本水大賞は、日本水大賞委員会と国土交通省が主催し、1998 年 6 月に、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる 21 世紀の日本を目指して、水循環の健全化に向けた諸活動を広く顕彰し、活動を支援するために創設されました。

水環境におけるすべての団体・個人の研究活動を対象とした国内唯一の賞となり、今年は応募総数 136 件中 15 団体が各賞を受賞しました。

■第19日本水大賞 表彰式 概要

- **日 時**：2017年7月11日（火）13:00～
- **場 所**：日本科学未来館 7階未来館ホール（江東区青海2-3-6）
- **主 催**：日本水大賞委員会（名誉総裁 秋篠宮文仁親王殿下、委員長 毛利 衛）、国土交通省
- **「北海道e-水プロジェクト」の出席者**

当社 代表取締役社長	佐々木 康行
北海道環境生活部長	小玉 俊宏
(公財) 北海道環境財団 理事長	小林 三樹

- **取材にあたってのお願い**

取材に当たりましては、別添取材要領（日本水大賞委員会）をご確認ください。

当社は、「北の大地とともに」をスローガンに、道産子企業として、北海道の魅力をさらに高める活動、地域課題解決への協力、次世代を担う子どもたちに将来の地球の姿を考える場の提供、安全で安心な地域づくりを応援する取り組みなど、事業活動を通して継続的に推進してまいります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
北海道コカ･コーラボトリング株式会社 広報･CSR推進部 担当：小野
Tel：011-888-2091

■ **参考 1　日本水大賞について**

- 水環境の健全化に向けた諸活動を広く顕彰し、活動を広く支援するために、平成 10 年 6 月に創設された賞です。
- 水環境におけるすべての団体、個人の研究活動が対象となっている国内唯一の賞となっています。
- 大賞以下、水行政に関わる６省すべてが大臣賞を設けています。

■ **参考 2　当社の受賞理由**

- 北海道は、大小さまざまな河川や湖沼が存在し、全国の湿地の約 86%が集中し、積雪の多さなどから世界的に見ても貴重な水の大地といえます。この水の大地を、健全な形で次世代に引継いでいくことが重要です。
  北海道コカ・コーラボトリング（株）は、地域限定商品の売り上げの一部を使い、北海道、北海道環境財団の三者協働事業として、北海道 e-水プロジェクトを実施しています。
  このプロジェクトは、水環境保全を目的としたフォーラムを開催したり、水生外来種駆除など環境保全活動を支援したりしています。
  企業が、社会的役割を認識して消費者と水循環健全化活動を結び付けていること、企業と行政と団体と協働することで実効性が高いことは特筆に値します。こうした企業活動がさらに盛んになることを願い、審査部会特別賞にふさわしいと判断しました。

（※国土交通省発表「日本水大賞」報道発表資料 別添より引用）

■ **参考 3　北海道ｅ－水（イーミズ）プロジェクトとは**

- 北海道には豊かな水資源とそれを取り巻く美しい自然があります。この北海道の恵まれた水とそれを含む自然環境を道民全体で保全し、未来に引き継いでいくため、道民、事業者、行政の協働のもとで地域における水辺の環境保全活動に取り組む事業が「北海道ｅ－水プロジェクト」です。
- 当社が販売する「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザインの売上の一部を(公財)北海道環境財団に寄付され、道内各地域で水辺の環境保全活動に取り組む団体および流域ネットワークの活動を支援を行います。
- エコロジーをイメージする「ｅ」と「きれいな水」というイメージを重ね合わせ、「北海道 e-水（イーミズ）プロジェクト」と名付けました。
- 2010 年から始まったこの「北海道 e-水プロジェクト」はこれまで本年度採択団体を含めると 8 年間で延べ 83 の団体を支援（※別図参照）活動の輪は全道一円に広がっています。

■ **参考 4　累計寄付金額**

2008～2015 年 寄付額実績	92,894,238 円
2016 年 寄付額	8,809,728 円
寄付額累計	**101,703,966 円**

内）北海道 e-水プロジェクト 77,325,771 円

■ **参考 5 活動の源である「ジョージアサントスプレミアム」北海道限定デザイン**

- 「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザインは 1993 年に発売して以来 20 年以上、北海道の多くのお客様に親しまれているコーヒーのロングセラー商品です。原材料には、北海道産の乳・砂糖を使用し、北海道の地産地消を応援しております。
- パッケージデザインは、北海道の代表的な自然風景を採用し、ご愛飲いただいている皆様から北海道の環境を守ることへの気持ちをお預かりするというかたちで、売上の一部を公益財団法人北海道環境財団へ寄付し、それを活用して北海道との連携のもと道内各地域の水辺の環境保全に取り組む団体と協働し、水辺の観察会や清掃活動などに取り組んでいます。
- 2009 年より開始された寄付は 2016 年に累計 1 億円を突破しました。

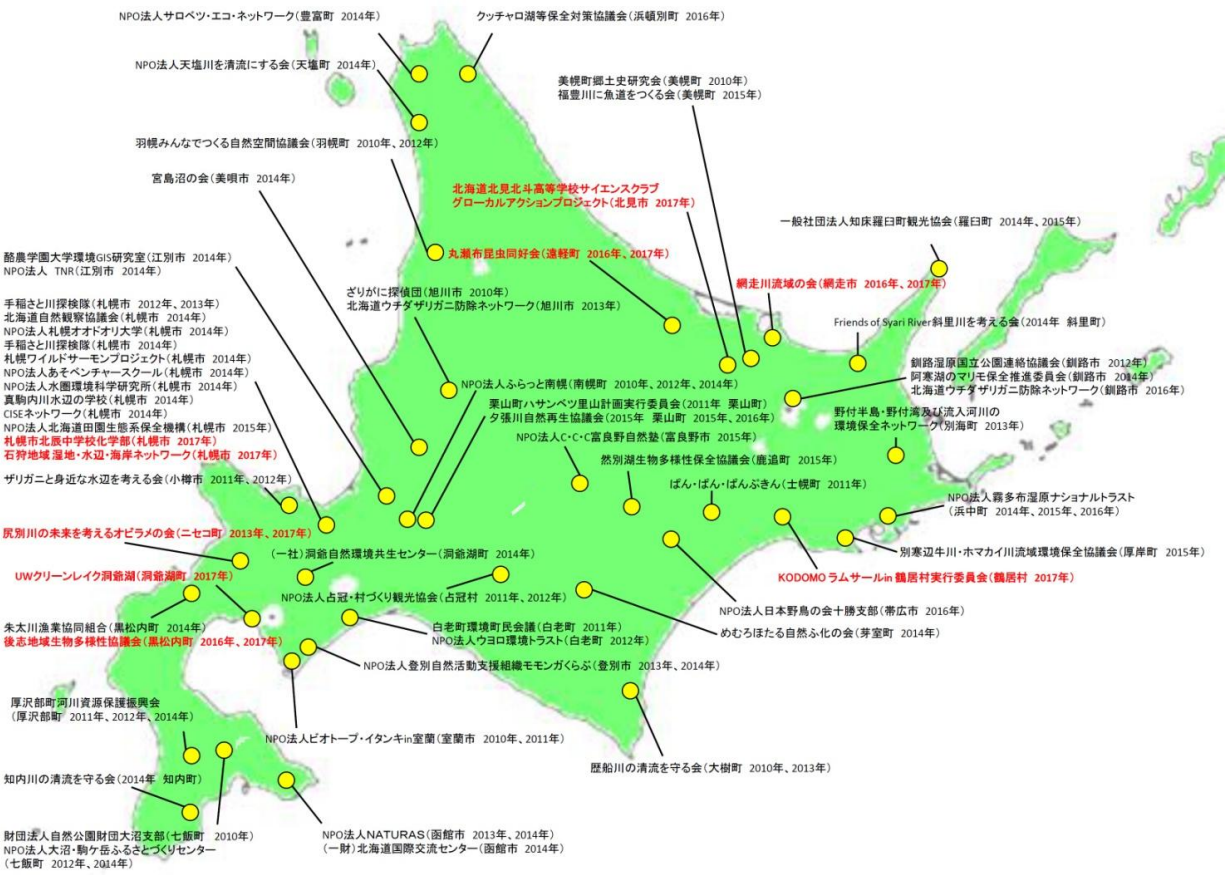
北海道の環境を守る あなたの１本

「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザインによる、北海道の水辺の環境保全に向けた寄付額は、累計１億円を突破しました。

※北海道ｅ-水プロジェクトの前身となる、北海道との「環境保護活動の推進に関する協定」に基づく寄付を含めた累計寄付額（2008 年～2016 年）

■ **参考 6 北海道ｅ－水（イーミズ）プロジェクト、歴代活動団体一覧**

【北海道e-水プロジェクト歴代活動団体一覧】



（延べ 83 団体、赤太字は 2017 年度採択団体）

第 19 回日本水大賞　各賞（応募総数 136 件）

各賞	活動の名称	活動主体の名称	都道府県
大　賞	創作劇「とこしま堰物語」の公演活動 ～地域の資源（筑後川）を活かした教育活動～	久留米市立金島小学校	福岡
国土交通大臣賞	“次世代へ繋ぐ”利根川水域交流連携 ～交流人口拡大と舟運ネットワーク創出がもたらす地域活性化～	PFI佐原リバー株式会社	千葉
環境大臣賞	多様な命　つながる九頭竜川へ ～サクラマスを河川環境の指標として～	サクラマス・レストレーション	福井
厚生労働大臣賞	ネットワーク活動でアジア地域に安全な水を広げよう	WaQuAC-NET	東京
農林水産大臣賞	震災復興へ向けた取り組みを自分たちの手で	福島市立渡利中学校　科学部	福島
文部科学大臣賞	地域と歩む麻機遊水地保全活用プロジェクト「麻活」	静岡県立静岡北特別支援学校	静岡
経済産業大臣賞	循環型環境ストレスフリーを実現した タオル生産プロセスの構築	株式会社 スマイリーアース	大阪
市民活動賞	余笹川をフィールドにした新たな水文化創造活動	余笹川流域連携ネットワーク	栃木
国際貢献賞	有機農業を広め、水源の森を守ろう！	特定非営利活動法人 イカオ・アコ	愛知
未来開拓賞	災害時に役立つ樹木を利用した 雨水を集水する研究活動	八丈町立富士中学校　自然科学部	東京
未来開拓賞	南河内地域の水環境保全 ～アユとゲンジボタルの再生活動を通して～	大阪府立富田林高等学校科学部	大阪
未来開拓賞	ゲリラ豪雨展・雨といきもの展全国 75 館巡回企画展示	水の巡回展ネットワーク	東京
審査部会特別賞	北海道 e-水プロジェクト	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	北海道
審査部会特別賞	「水の神さま」を通した 市民と農村住民・被災地域住民との交流	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	宮城
審査部会特別賞	水と川を学ぶために ～親子教室と体系化学習のアプローチ～	特定非営利活動法人 e-plus 生涯学習研究所	

平成29年7月7日

日本水大賞委員会

同時発表

宮内記者会
国土交通記者会
国土交通建設専門誌記者会
環境問題研究会
厚生労働記者会
農政クラブ
農林記者会
文部科学記者会
経済産業記者会

第19回日本水大賞・2017日本ストックホルム青少年水大賞

秋篠宮同妃両殿下のお成りについて

取　材　要　領

お問い合わせ先

日 本 水 大 賞 委 員 会
公益社団法人日本河川協会

電話番号　03-3238-9771（代）
主任研究員　田畑　雄基

1. 御 日 程

平成29年7月11日（火）

日本科学未来館　　御 着 12時40分

同　所　　御 発 14時48分

時刻につきましては、取材の便宜のためにお知らせするものですので、 事前に記事にされることは、ご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

2. お成りの所在地及び連絡先

日本科学未来館　7階　未来館ホール

所在地：135-0064　東京都江東区青海2丁目3番地6号

連絡先：交流施設担当　　電話　03-3570-9151（代表）

※ご質問に関しては、日本水大賞委員会03-3238-9771へご連絡ください。

3. 報道関係者取材についてのお願い

本式典の、取材の場所や方法については以下のとおり取材をされる様、十分ご了知いただくとともに、ご協力くださいます様お願い申し上げます。

（1）受　付

① 当日の11：30から12：00までに、日本科学未来館　7階　未来館ホール前の「日本水大賞」式典会場受付（報道受付）にお越しください。（4ページ「会場全体図」参照）
※当日は休館日のため通常入口（メインエントランス）は閉鎖されております。
⇒入場は「職員通用口」をご利用ください。

② 受付において、身分証明証又は記者証をご提示のうえ、社名・お名前をご記帳ください。

③ 報道関係の方には、胸章をお渡しいたしますので、必ず御社腕章とともにご着用ください。
（宮内記者会は、同記者会の腕章のみ）

④ 受付で、「スチールカメラ」「ムービーカメラ」のカメラの種類を伝えてください。（各社1台でお願いします。）

（2）取　材

① 今回の取材につきましては、すべて指定取材場所での固定取材となります。ご了承ください。
カメラの取材場所及び予定時間は、以下の通りです。

ア）表彰式　　7階　未来館ホール最後方（5ページ「表彰式会場図」参照）　　13：00～14：30

イ）受賞者　お声かけ
7階　イノベーションホール（6ページ「受賞者お声かけ図」参照）　　14：42～14：44

※撮影は冒頭の**2分**でお願いいたします。⇒その後速やかに撤去願います。

② 取材場所の移動

「表彰式」「受賞者お声かけ」それぞれの取材場所への移動は、速やかにお願いいたします。
※秋篠宮同妃両殿下御入場（12：59）後は、ホールの扉をクローズいたします。

⇒*ホールの出入ができなくなります。ご注意ください。*

③ 各取材場所へのカメラ等のセッティングは、次の時間までにお願いいたします。

ア）表彰式　　12：50まで
イ）受賞者お声かけ　14：31から14：41まで　※「記念撮影」終了後からのセッティングとなります。

④ 注意事項

◇表彰式会場（7階未来館ホール内での、フラッシュ及びVTR照明のご使用はご遠慮ください。
◇表彰式会場内の撮影場所（最後方）から御席まで約16mです。（※上からの撮りおろしとなります）
◇表彰式会場のペン記者取材も取材場所の席にてお願いいたします。
◇表彰式会場の取材場所には、取材用音声分配器（キャノン3P　6ch）を用意いたします。
どうぞご利用ください。
◇各取材場所は、1社につき1カメラ（ムービーの助手は1名まで）とさせていただくようご協力をお願いいたします。
◇各取材場所での撮影の際は、取材位置からの移動をご遠慮ください。
◇両殿下へのマイクのつき出しやご質問、声かけ等はご遠慮ください。
◇取材場所以外での撮影はご遠慮願います。

（3）その他

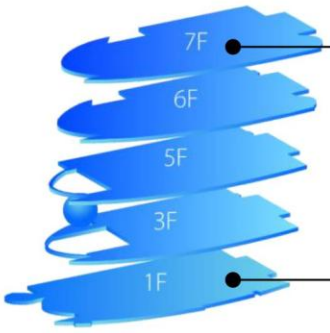
・記録用カメラは、取材場所以外で撮影を行います。ご了承ください。
・駐車場に限りがあります。場合によっては、同施設内の「有料地下駐車場」をご利用いただく場合がございます。
（その場合の駐車料金は、各位にてご負担いただきます。ご了承ください。）
・その他当日の行動につきましては、係員の指示に従って速やかにご行動くださいますようお願い申し上げます。

会場周辺図

車両動線 ⟶　　歩行者動線 ⟶

会場全体図

フロアガイド

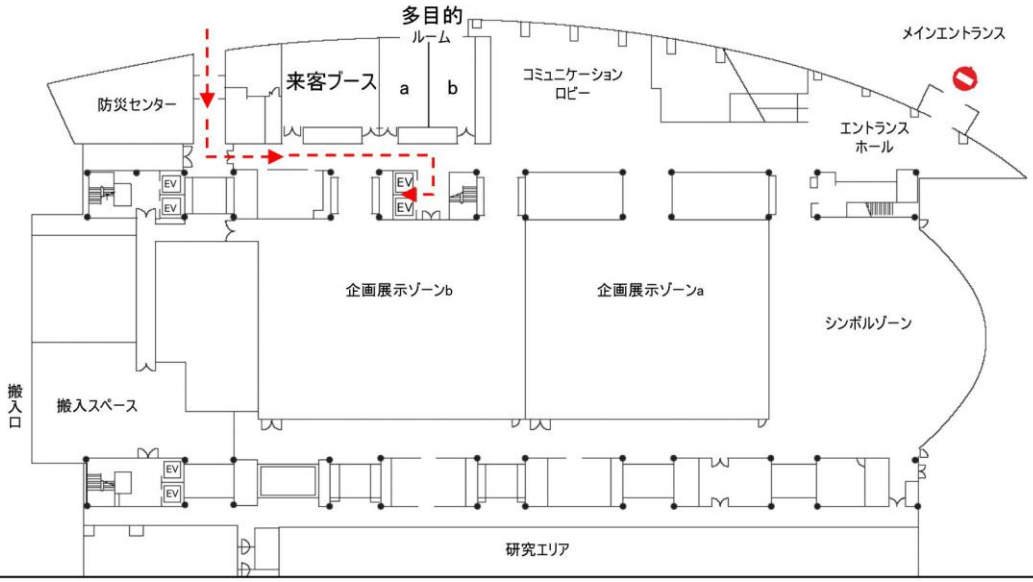


表彰式・受賞活動発表会　会場
御休所・各控室
記念パーティー　会場

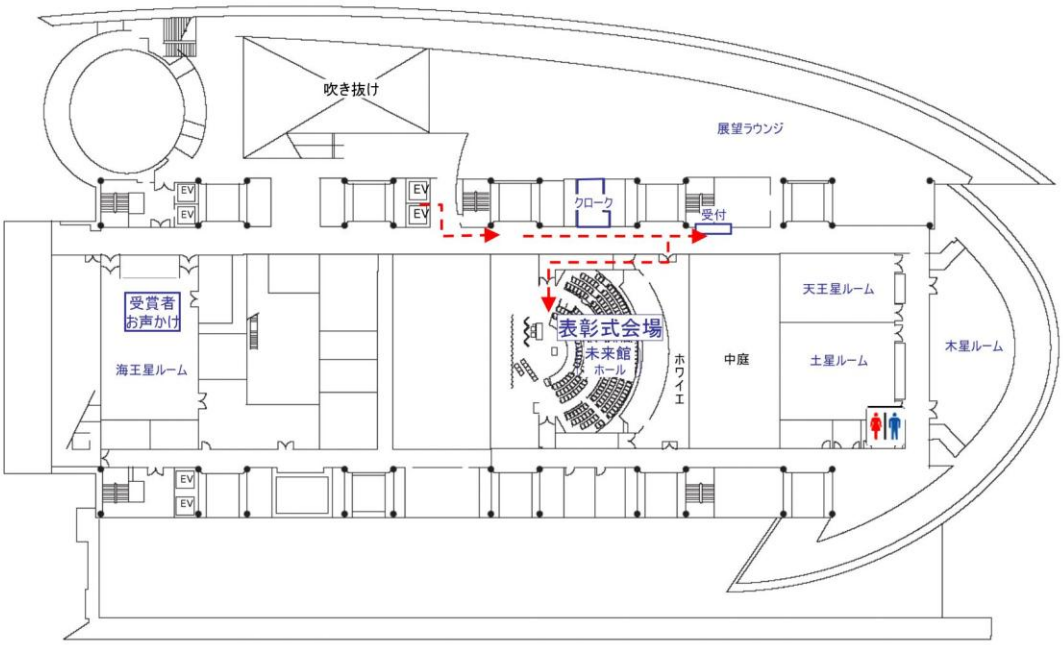
会場入口

1F

※休館日のため「職員通用口」より入場（「メインエントランス」入場禁止



7F

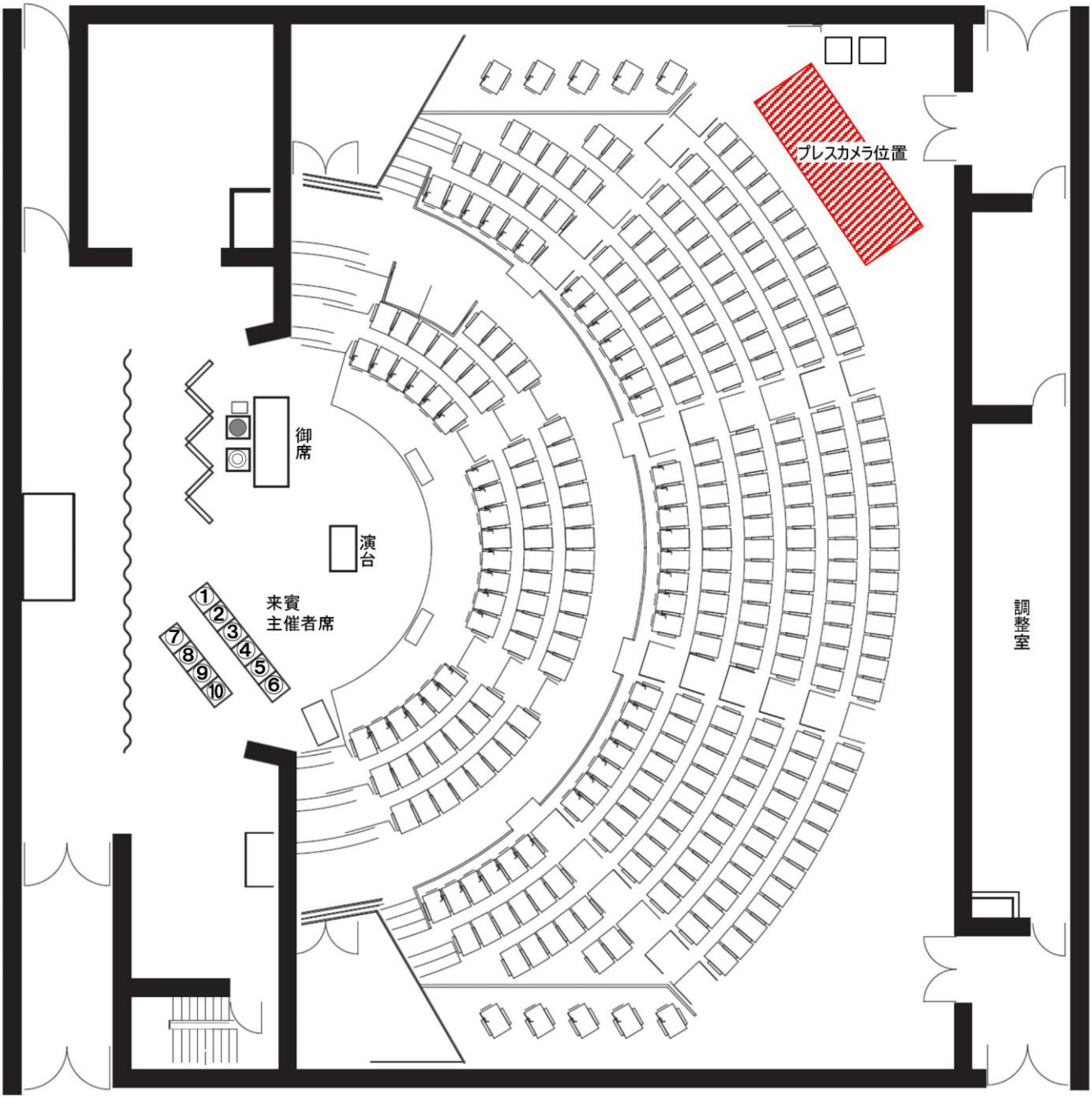


表彰式会場図

◎ 秋篠宮殿下　　● 秋篠宮妃殿下

①	国土交通省　参列者席
②	環境省　参列者席
③	厚生労働省　参列者席
④	農林水産省　参列者席
⑤	文部科学省　参列者席
⑥	経済産業省　参列者席

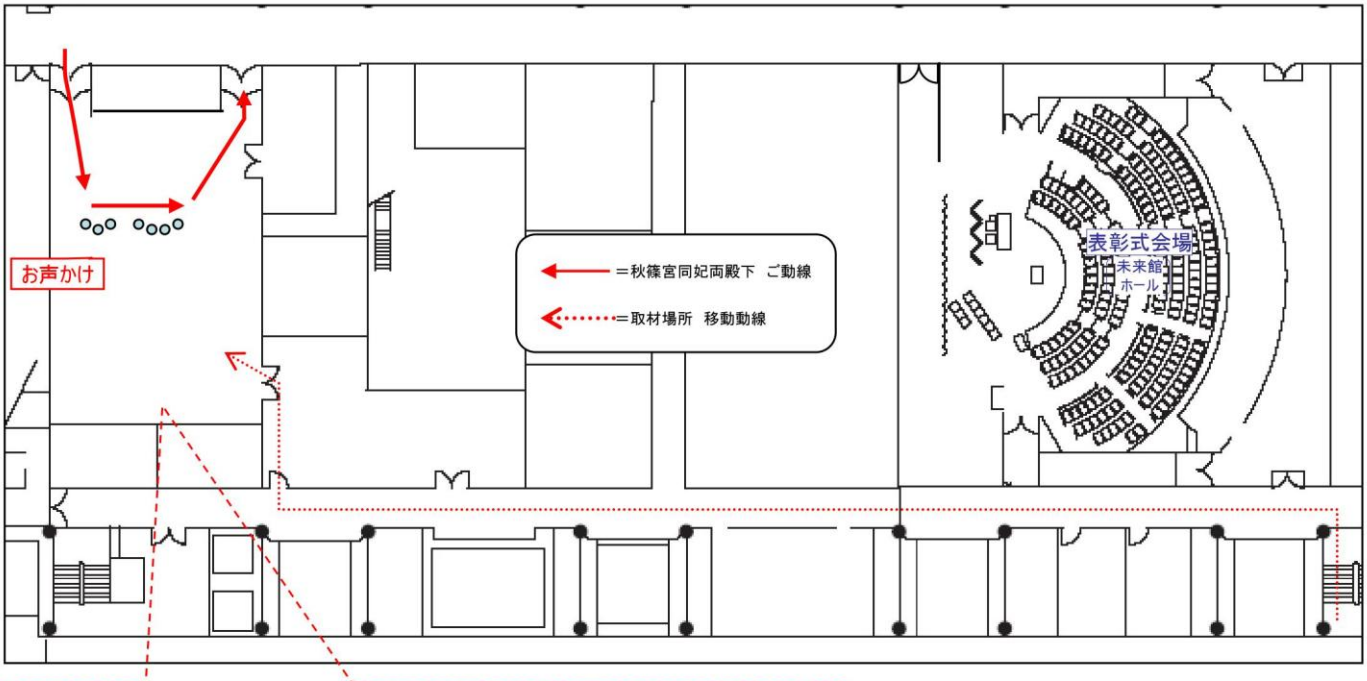
⑦	委員長	毛利　衛
⑧	副委員長	虫明　功臣
⑨	審査部会長	谷田　一三
⑩	委員会委員 ※「市民活動賞」贈呈者	滝田　恭子

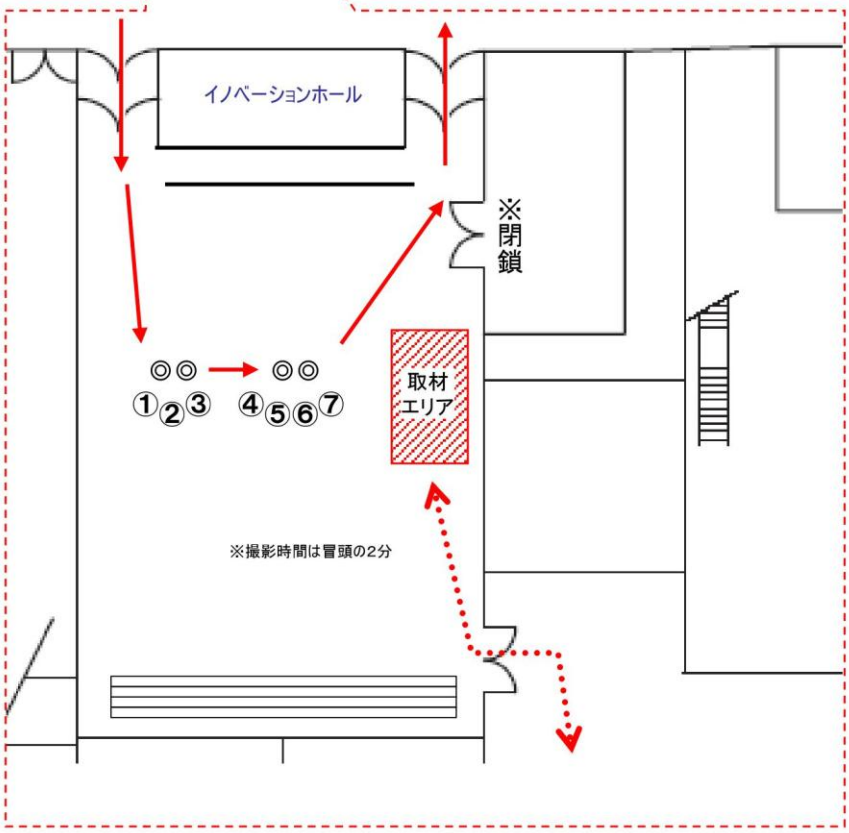


※292席

受賞者お声かけ図

● 7F





＝秋篠宮同妃両殿下　ご動線

〈お声かけ〉

〈日本水大賞受賞者〉

福岡県久留米市立金島小学校
① 中原　浩　校長
② 高倉　敬司　前教頭
③ 竹内　裕紀　教諭

〈日本SJWP受賞者〉

京都府立桂高等学校
地球を守る新技術の開発研究班
④ 片山　一平　指導教諭
⑤ 増田　あすか
⑥ コロンボン惠織ネルキ
⑦ 近藤　稜真

◎取材場所でのセッティングは、「記念撮影」終了後に行ってください。（14:35）
（セッティングの時間は、14:31～41頃の予定。スタッフの指示に従って、すみやかに準備を完了してください。）

◎撮影は冒頭の2分でお願いいたします。2分経過後スタッフの指示で撮影をやめて、静かにお待ちください。
⇒両殿下ご退場後、速やかに撤去願います。

※受賞者位置は変更になる場合があります。